

第2学年 国語科学習指導案

指導者 京都市立第四錦林小学校 青井 杏実

1 日 時 令和 5年 2月 7日(火) 第6校時(14:25~15:10)

2 学年・組 第2学年 1組(18名)

3 単元名 だいじなことばに気をつけて読み, 分かったことを知らせよう
(教材名) 『おにごっこ』

4 単元の目標

- ◎読書に親しみ, いろいろな本があることを知ることができるようにする。
- ◎文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができるようにする。
- 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができるようにする。
- 文章を読んで感じたことや分かったことを進んで共有し, 学習の見通しをもって, 本を読んで分かったことを説明しようとするようにする。

5 単元の評価規準

知・技	① 読書に親しみ, いろいろな本があることを知っている。((3)エ)
思・判・表	① 「読むこと」において, 文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ) ② 「読むこと」において, 文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ)
態	① 文章を読んで感じたことや分かったことを進んで共有し, 学習の見通しをもって本を読んで分かったことを説明しようとしている。

6 単元について

【育成を目指す資質・能力】

本単元の内容は, 学習指導要領において次のように示されている。

〔知識及び技能〕

(3)我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

エ 読書に親しみ, いろいろな本があることを知ること。

〔思考力, 判断力, 表現力等〕

C 読むこと

(1)読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。

(2)(1)に示す事項については, 例えば, 次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 事物の仕組みを説明した文章などを読み, 分かったことや考えたことを述べる活動。

【単元を通した言語活動】

- ・「クラスのお楽しみ会でみんなとしたい遊びを見つけ, 紹介しよう」と設定し, 遊びに関する本を読んで調べ, 分かったことをまとめた「遊び方説明書」を作る。その後, 作った説明書を基に, 友達と遊びを紹介し合い, 実際に遊ぶ機会を設ける。

【単元構想】

○「出会う」

- ・本単元では単元の最後に「お楽しみ会でやりたい遊びを紹介しよう」という、作った説明書を基に、遊びを紹介し合い、実際に遊ぶ機会を設ける。「みんなで楽しく遊びたい」「自分の紹介した遊びをみんなでやりたい」という思いを常に意識することで、選んだ遊びの遊び方や面白さを友達に分かりやすく表現しなければならないという思いをもって学習に向かうことができるようにする。

○「追究・表現する」

- ・次のような順に、指導事項を指導する。

◆「おにごっこ」について

- ① お楽しみ会でやりたい遊びを紹介するために、「おにごっこ」を読み、書かれているおにごっこが「どんな遊びか」について考える。
- ② お楽しみ会でやりたい遊びを紹介するために、「おにごっこ」で紹介されているおにごっこの「おすすめポイント」を見つける。
- ③ お楽しみ会でやりたい遊びを紹介するために、自分が紹介したい遊びの「おすすめポイント」と「そのわけ」を体験と結びつけながら交流し、考えを明確にする。

○「生かす」

- ・自分の選んだ遊びを友達に紹介する。

【児童観・指導観】

学習内容や資質・能力に関わる児童の実態	児童の実態に対する具体的な手立てや支援
<ul style="list-style-type: none"> ・文章から主語と述語の関係を理解することはできる。 ・読書に親しみを持っており、絵本や昔話、外国の話などいろいろな本があることを知っている。 ・文章の情報から共通点や相違点を見つけることが難しい児童もいる。 <p>(知識及び技能)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・重要な文や語句に線を引くことで、内容を理解できるようにする。
<ul style="list-style-type: none"> ・「馬のおもちゃの作り方」の単元において、事柄の順序や時間的な順序を考えて内容の大体を捉えることができた。 ・筆者の考えに対して、自分なりの思いを持つことができる。 <p>(思考力・判断力・表現力等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・なかなか考えを持ってない児童や早々と自分の考えを持つことができた児童は、ペアで話し合うようにすることで、友達の考えを参考にできるようにする。
<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対して前向きであるが、自分の考えに自信がなかったり、全体で積極的に発表できなったりする児童もいる。 ・友達の意見に対して、反応することができる。 ・感じたことや分かったことを友達と交流することができる。 <p>(学びに向かう力・人間性等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の前に、ペアやグループで交流する時間を設定したり、同じ考えでも自分の言葉で発表するよう促したりする。

7 指導計画 【指導のポイント 手立て !配慮事項 他他教科等との関連 ⑤個別支援】

時	○学習活動 ◆主な発問 子どもの反応	指導のポイント	評価観点
1	<p>○学習の見通しをもつ。 ◆知っているおにごっこは、どのようなおにごっこですか。</p> <p>・こおりおにやふえおに。 ・てつなぎおにというおにごっこ。</p> <p>◆他にもわたしたちの知らないおにごっこがあるかもしれません。 遊びについて書かれた本がたくさんありますよ。</p> <p>[学習課題] 大事なことばに気を付けて読み、分かったことを知らせよう</p> <p>◆本を読むと、いろいろな遊びが分かります。読んでからどうしますか。</p> <p>・読んで分かったことをまとめて、みんなに発表したい。 ・みんなで分かったことを書いて「○組 あそびずかん」をつくりたい。 ・分かったことを交流して、みんなで遊びたい。</p>	<p>㊦遊びについて書かれた本のブックトークをすることで、本を読む意欲を高め、学習課題をつくるようにする。</p>	態①
2	<p>○説明のしかたを確かめながら文章を読む。 ◆どのようなおにごっこが、どの順番で書かれていますか。</p> <p>・「てつぼうよりむこうににげてはだめ。」というおにごっこ ・「にげる人だけが入れるところをつくったり、つかまらないときをきめたりする」おにごっこ ・「おにが交代せずに、つかまった人がみんなおにになっておいかける。」 ・「おにになった人は、みんな手をつないでおいかける。」</p> <p>◆なぜこの順番で書かれているのだと思いますか。</p> <p>・だんだんつかまりにくくなる順番で書かれている。 ・遊びに工夫がある順番に書かれている。 ・だんだん長く遊べるおにごっこになっている。 ・それぞれのおにごっこの面白さを調べたい。</p>	<p>㊦第1段落に着目して読み、「どのような遊び方があるか」「なぜ、そのような遊び方をするのか」について書かれていることをおさえる。そして、その答えはどこに書いてあるのか探して読むようにし、学習を進めていく。</p> <p>ICT デジタル教科書等を活用し、傍線を引いたり線で囲んだりした重要な語句や文をタブレットや電子黒板等に示して理由や考えを共有することもできる。</p> <p>⑤P92「たいせつ」を読み、大事な言葉や文を見つけて必要な情報を話すよう働きかける。</p> <p>㊦P90「せいをするときのれい」を見て、遊びとそれぞれのおもしろさを表にまとめるようにする。</p> <p>㊦遊びを紹介する楽しさに触れることで、本で調べて紹介する活動へつなげる。</p>	思①
3 4	<p>○それぞれの遊び方が、どのような「おもしろさ」につながっているのかを読む。 ◆それぞれの遊び方には、どのような「おもしろさ」があるのでしょうか。</p> <p>・<1つ目>おにはにげる人をつかまえやすくなる。 ・<2つ目>にげる人がかんたんにはつかまらないようになる。 ・<3つ目>おにはにげる人をつかまえやすい。にげる人は、工夫して走ったりにげたりするのでドキドキすることが増えて、面白くなる。 ・<4つ目>おにが力を合わせて追いかける楽しさが加わる。おにごっこがすぐに終わらずに長く遊び続けることができる。</p>	<p>⑤P92「たいせつ」を読み、大事な言葉や文を見つけて必要な情報を話すよう働きかける。</p> <p>㊦遊びを紹介する楽しさに触れることで、本で調べて紹介する活動へつなげる。</p>	思①
5 6	<p>○教材文「おにごっこ」に出てくるおにごっこをもっとおもしろくするためには、どのような工夫を付け足すとよいか考える。 ◆もっとおもしろくするには、どのおにごっこにどのようなきまりを工夫したらよいと思いますか。</p> <p>・「地面にかいた丸の中ではつかまらない」おにごっこをもっと工夫するとよいと思う。逃げる人がずっと丸の中に入るとおにが困るから、何秒までいられるか決めるといいと思う。 ・丸の中におにが通れる道をつくって、通るときにつかまえられるようにすると、おにもにげる人もドキドキが増すと思う。</p>	<p>⑤P92「たいせつ」を読み、大事な言葉や文を見つけて必要な情報を話すよう働きかける。</p>	思①

	<p>7 ○教材文「おにごっこ」を読んでわかったことや、他の本を読んで調べてみたい視点について話し合う。 ◆「おにごっこ」を読んでどんなことがわかりましたか。また、他の本を読んで、どんなことを友達に知らせたいと思いますか。</p> <p>・たくさんおにごっこがあるのは、「おに」も「にげる人」も「走るのが苦手な人」も「走るのが得意な人」もみんなが楽しめるように、どんどんきまりが増えていったんだなと思ったよ。 ・本で調べるときには、「逃げる人とおいかける人」や「ボールを投げる人と受ける人」のように、どんな人が出てくるのか、確かめたいな。 ・調べた遊びも「みんなが」楽しめる工夫があるか、見つけて友達に紹介したいね。</p> <p>8 ○分かりやすく説明するために、大事な言葉や説明の仕方について考える。 ◆遊びについて分かったことを知らせるために、どんなことに気をつけて、本を読んだらよいでしょうか。</p> <p>・知りたいことが書いてあるところを読めばいいね。 ・読んで分かったことはメモしておこう。</p> <p>◆91 ページを読みながら、分かったことをどのように説明すればよいか考えましょう。</p> <p>・遊びの名前と本の名前がかいてあるね。 ・どんな遊びなのか書くと分かりやすくなるね。</p> <p>9 ○おにごっこや他の遊びについて、本を読んで調べる。 10 ◆遊びを紹介している本を探して読みましょう。 調べるときに気を付けることを確かめましょう。 ◆友達に紹介したい遊びを調べ、大事な言葉を付箋紙にメモしよう。</p> <p>・遊びの名前、だれがどのようにして遊ぶのか、どんなおもしろさがあるのか、短い文や言葉でメモに書こう。 ・外国の遊びも面白そうだな。</p> <p>11 ○読んで調べたことを、書いてまとめる。 本時 ◆付箋紙をならべかえて、説明の順序を考えましょう。</p> <p>・P91の説明のように、みんなに紹介しよう。 ・私は、「世界の子どもの遊び」という本で見付けた「バタダ・ケンチ」というブラジルの遊びを紹介しよう。まず、みんなは輪になって座り、一人がおにになる。おには輪の外に出て目隠しをする。おに以外の人は「バタダ・ケンチ」と言いながら熱いジャガイモのつもりでボールを回す。おにが・・・</p>	<p>思②</p> <p>知①</p> <p>知①</p> <p>知①</p> <p>知①</p> <p>知①</p>	
生かす	<p>12 ○調べたことを説明し合い、よいところを伝え合う。 13 ◆友達に調べたことを説明しましょう。よいところを伝え合しましょう。</p> <p>・友達の説明が分かりやすくて、すぐに遊びたくなった。 ・はじめに何をするか、次に何をするか、どうしたら遊びが面白くなるのかがよく分かるように教えてくれたのが、すごい。</p> <p>◆実際に遊んでみましょう。</p> <p>・説明だけだったら分かりにくいところが、実際に遊ぶとよく分かった。 ・新しい遊びを知ってとてもうれしい。 ・もっと、いろんな本を読んで、新しい遊びを調べて説明したい。</p> <p>14 ○「この本、読もう」でいろいろな遊びを紹介している本を読み、読書の世界を広げる。 ◆友達が調べた本で、読みたくなった本はありますか。読んでみよう。</p> <p>○単元における学びを振り返る。 ◆何度も書くと、自分の「日記帳」ができますね。</p>	<p>思② 態①</p> <p>知①</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> ・順序に気を付けて説明すると、分かりやすく伝わるのが分かった。 ・知りたいことを見付けながら本を読むには、大事な言葉を見付けるとよいということが分かった。 ・遊びの本もあるなんて、本にはいろいろなものがあるのだな。 	<p>り、これからの読書生活に生かすようにする。</p>
--	---	------------------------------

記録に残す主な評価場面（例）	
<ul style="list-style-type: none"> ・思② 「読んでわかったことや、他の本を読んで調べてみたい視点について話し、まとめたノート」【7時間目】 ・知① 「遊びの本を見付け、友達に紹介したい遊びについて読書を進めている様子」【9・10時間目】 ・態① 「本を読んで分かったことを進んで友達に伝えようとする様子」【12・13時間目】 ・併せて確認（ペーパー）テストを実施し、評価資料として活用する。 	

8 本時について（11 / 14）

（1）目標

相手に分かりやすい、選んだ遊びの説明の順番を考えることができる。【思①】

（2）展開

○学習活動 ◆発問 ・児童の反応	◇支援 *留意点 ㊦個別支援
<p>○学習のめあてと流れを確かめる。</p> <p>◆前回、説明に必要なことをメモに書きました。メモの内容を分かりやすく伝えるためには、どんな工夫ができますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くわしく説明する。 ・絵や写真をつける。 ・説明の順番を考える。 	<p>◇壁面にこれまでの学習内容を掲示することで、どんな学習をしてきたか、どんなポイントがあったかを、思い出せるようにする。</p>
<p>あい手に分かりやすいせつ明のじゅん番を考えよう。</p>	
<p>○教科書の説明のモデルや壁面掲示を参考に、説明の順序を考える。（個人）</p> <p>◆教科書の説明文はどんな順序で書かれていましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本の名前と遊びの名前、遊び方の順番で書かれています。 ・遊びの面白さをもっと増やした方が伝わりやすいと思います。 <p>◆分かりやすく選んだ遊びが伝わるように、メモを並び替えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずはなんの遊びを説明するかが必要です。 <p>○メモをグループ内で共有し、説明の順序を考える。</p> <p>◆グループでメモを並び替えて、分かりやすくなっているか、付け足したいものがないか確かめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○と△△は逆の方がいいと思います。 	<p>◇調べたことをメモした付箋を順番に並べ替えたり精選したりして、事柄の順序を考えることができるようにする。</p> <p>◇遊び方の説明の内容・順序について、教科書を参考に友達と交流しながら考えられるようにする。</p> <p>◇ロイロノートを活用して全員のメモを共有することにより、ほかの友達のメモを知ることが</p>

<p>・遊び方をもっと詳しくした方がいいと思います。</p> <p>○本時の学習を振り返る。 ◆今日の学習を振り返りましょう。</p>	<p>できるようにする。 【ICT活用〈図1〉】</p> <p>◇並び替えが早く終わったグループから発表原稿の作成に取り掛かるようにする。</p> <p>㊦メモを上手く文章に繋げられない児童には、既習事項の「まず」「次に」などの順序を表す言葉を使うと分かりやすくなることを伝える。</p> <p>*振り返りでは、以下の視点を示す。 「メモを並び替える時に考えたこと」 「なぜその順番にしたのか」</p>
---	---

(3) 評価

<p>【思①】</p>	<p>「読むこと」において、相手に伝わるように、選んだ遊びの説明の仕方を考えることができる。(ノート・ロイロノート)</p>
<p>「おおむね満足できる」状況と判断できる「発言・記述」</p>	
<p>グループで調べた遊びについて、相手に伝わる説明になるよう順序や言葉を考えてメモを並び替えている。 「○○より△△が先にあると、伝わりやすいね」</p>	

(4) 板書計画

おにごっこ(十一時間目)

めあて
えらんだあそびがたわるように、せつ明のしかたを

教科書のせつ明文

① しらべる時につかった本の名前

② あそびの名前

③ あそび方

◎じゅんじよをあらわす言ば(馬のおもちやの作り方)

まず つぎに それから さいごに

○もっと分かりやすくするための工夫

- ・ 絵やしやしんをつける
- ・ あそび方をくわしく書く
- ・ じゅんじよをあらわす言ばをつかう

【ふりかえり】

○メモをならびかえる時に考えたこと

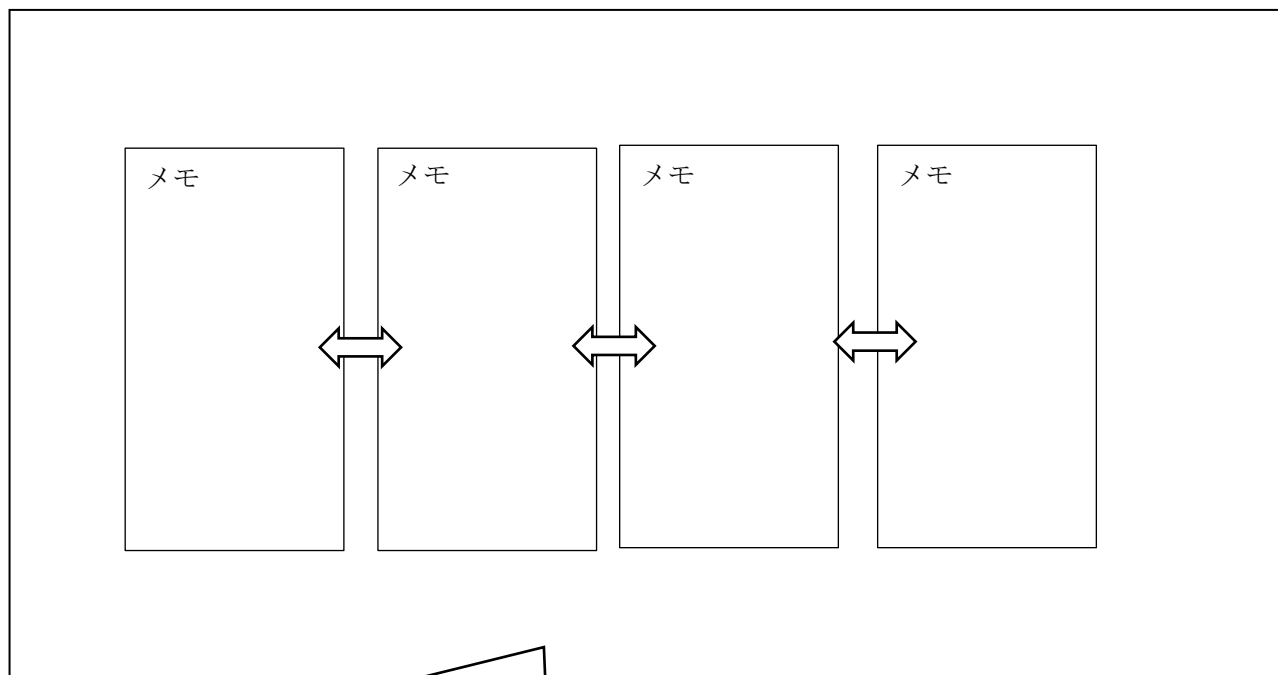
○なぜそのじゅんじよにしたのか

【学しゅうのながれ】

① 今までのかくにん

② メモのならびかえ(一人)

(5) ICT活用〈図1〉



- ① ロイロノートで本から分かったことをメモする。
(入力に時間がかかる児童は付箋に書き、それを写真で撮影する。)
- ② ロイロノート上で集めたメモを並び替える。
- ③ グループ内でメモを共有し、並べ替える。